美方高校新聞

発行所
福井県立美方高等学校
新　聞　部
編集責任者
新　聞　部

十村駅リニューアル
地元に愛され新たな時代を歩む

三月二〇日、十村駅のリニューアルオープンを記念する式典が行われた。駅舎は木板貼りのレトロな雰囲気で見違えるほど綺麗に生まれ変わった。この日を待ちわびた多くの住民が駆けつけ共に完成を祝った。

ＪＲ小浜線で最古の十村駅は今年で一〇五年目を迎えた。駅舎は二〇一九年に撤去の危機に直面したが「歴史ある駅舎を残したい」と住民四人が一般社団法人「とむら」を発足し存続が叶った。

レトロな雰囲気の木造建築

式典で「とむら」の田中理事長は「この施設は小浜線利用者や地域住民の憩いの場として、また地域の活性化のために再生された。これから長く繋いでほしい」と挨拶した。その後、渡辺若狭町長ら出席者がテープカットすると、併設のカフェがオープン。珈琲やうどんが振る舞われ、人々の心と体を温めていた。

この日新たな時代を歩み始めた十村駅。これからもたくさんの人に愛され続けることだろう。

ほっと安らげる ぽっぽ茶屋ほっとむら

駅舎内に新たにできたカフェは『ぽっぽ茶屋ほっとむら』と名づけられた。ほっと安らぐ場所ほっとな村になるようにと願いを込めた。約十五人の地元のボランティアスタッフが毎日二人ずつ交替で切り盛りする。メニューは珈琲、うどん、ぜんざい。本格的な厨房があるため、将来は飲食店や個人が日替わりで営業できるように自由度の高い運営を目指している。充電可能なカウンター席は高校生の勉強の場にも最適だ。大型スクリーンでスポーツ観戦、ミニコンサートやワークショップなど地元の人が楽しむスペースとして可能性が広がる。

行列ができるカフェ店内

大忙しの厨房内

この日厨房に立った田中さんは「寒い中たくさんの方が来てくれて驚いた。これから慣れていきたい」と嬉しそうに話した。また、カフェを利用した男性は「綺麗になって同時に歴史も感じる。うどんはあっさりして美味しかった」と満足そうだった。

カウンター席の町長

渡辺町長はカフェ開店について「美方高校食物科に料理を提供してもらうなど、地域の人が活用し集える場所にしてほしい」また、今後の小浜線について「二年後に北陸新幹線が敦賀に繋がるため十村駅を中心に利用客が増えてほしい」と笑顔で語った。

今後のカフェスペースの活用について田中理事長は「利用者の募集をしていく。地元の食品を売ったり、美方高校とのコラボは是非実現したい」と力を込めた。開店時間は十時～十七時（水曜日は休み）注文をせずに気軽にくつろぐだけでもよい。フリーｗｉｆｉも備わり快適だ。美方高校生も勉強をしたり、地域の人との交流を楽しむ場所として訪ねてみてはどうだろう。

記念日を盛り上げた人達

駅舎の入口にはバルーンのアーチが飾られた。作成したバルーンアートアーティストの久保楓さんは我らが先輩、生活情報科の卒業生。お客さんがリクエストしたクマや剣などをあっという間に完成させていた。また、テントでは魚市が開かれた。へしこや干物、茎わかめなどが格安で販売され多くの人が楽しんだ。

自慢のへしこ

子ども達も大喜び

十村駅 百五年の足跡

十村駅は一九一七年（大正六年）十二月十五日に開業し、現在の小浜線で最も古い木造の駅舎である。開通当時の十村駅は敦賀駅からの終着点だった。九両編成の蒸気機関車がほぼ満員になり貨物列車も走っていた。昭和四十年頃までの十村駅前は旅館や商店、映画館などが並び賑やかだったという。近年は小浜線の乗客減少に伴い駅前の賑わいも薄れていた。二〇一九年、駅舎を管理する町から老朽化を理由に解体の方針が示された。そこで立ち上がったのが田中信一さん、江戸俊博さん、清水英夫さん、長江和男さんの四名だ。一般社団法人「とむら」を発足し、駅舎のリニューアルに踏み切った。クラウドファンディングで資金を募ると、目標金額百万円のところ百二十二万円が集まった。また、みそみ地区の各世帯からも約三百万円の協力金が集まった。

十村駅最後のＳＬ（1971年）　写真：石田さん

リニューアルした十村駅の特徴はレトロ風で木の温かみがあるところだ。柱や梁は建築当時のまま使われている。まるで百年前の姿が蘇ったようにも感じる。

「昔は郵便車に急ぎの郵便物を渡しに行った」「就職や進学で地元を離れる友達を見送った」など十村駅にまつわる思い出を語る人も多いという。

田中さんらは「二〇三〇年までに小浜線のほとんどの駅が無人化すると言われているが、今ある駅舎が廃れることなく残ってほしい。そして、昔のような賑わいが戻ってほしい」と祈りを込めた。

十村駅と時代を築く石田商店

開業当時からの看板

十村駅の向かいに古くてどこか愛らしさを感じるお店がある。菓子やたばこ、生活雑貨を扱う「石田商店雑貨部」だ。小浜線全線開通時に開店し約百年続いている。かつては旅館業や運送業も兼ね、交通の要となる十村駅前で大切な役割を担っていた。

現在の店主、石田雅子さん（六十九歳）は約十五年前に四代目として店を受け継いだ。石田さんが高校生の頃はまだＳＬが走っていたという。機関車の向きを変えるための転車台の跡地でリレーをしたことや、通学列車に遅れそうになり急いで飛び乗ったことなど思い出がたくさん。駅のリニューアルにあたり石田さんは「駅舎から眺めた電車と乗降客の光景に改めて感動した。この場所を守り、皆の繋がりと地域の大切な拠点になってほしい」と願った。

石田さんと看板娘

石田商店の古い看板や道具からは歴史が感じられ、そのレトロな雰囲気が写真に撮るとエモくＳＮＳ映えする。また、懐かしい菓子を安く買うこともできる。美方高校生も十村駅を訪れた際は是非石田商店に立ち寄ってみよう。

今の小浜線は減便や利用客減少など厳しい状況にあるが、路線存続と地域の盛り上がりのために、高校生にもできることがあると思う。まずは積極的に小浜線で地元に遊びに行き、地域の魅力や歴史、尊さを感じてほしい。

レトロ可愛いお菓子駅を臨むテラスにて

歴史を感じる レトロなものたち

古い待合所にあったベンチをホーム側へ移設して再利用

昔の駅番どこにあるかな？

駅舎入り口にあるポストは「地域の人とのご縁を大切にする」との意味を込めて昔ながらの円柱タイプに変更